

令和8年4月28日

豊橋市教育委員会 様

所在地 愛知県安城市御幸本町7番9号
名 称 愛知ネット・豊橋市シルバー人材セン
ター共同体
代 表 天野 竹行

令和7年度 豊橋市青少年センター事業報告（提出）

見出しのことについて、別紙のとおり提出します。

令和7年度

豊橋市青少年センター事業報告書

指定管理者

愛知ネット・豊橋市シルバー人材センター共同体

目 次

一本 編一

I 令和7年度の目標	P1
II 令和7年度の実績	P1
III 関連団体施設利用者数	P4
IV 収支状況	P4
V まとめ	P5

一資料編一

資料1 場所別・時間別利用状況

資料2 主催事業の参加状況

資料3 主催事業決算書

資料4 ユース・レクリエーション・リーダー派遣状況

資料5 主な備品・修繕内訳一覧

資料6 収支決算書

資料7 主催事業の概要

はじめに

愛知ネットが当センターの管理運営に携わって丸 15 年、シルバー人材センターと共同して取り組んで 5 年が経過した。また、指定管理 4 期目の 2 年目であり、過去の実績を基盤に、安心安全な環境づくり、より利用しやすい施設運営、魅力的な講座イベントの企画、積極的な情報発信等に努め、市民に愛される社会教育施設を目指して取り組んだ。もちろん、当センターの本来の設置趣旨である「青少年の健全育成」に努め、社会の変化や若者のニーズなどに配慮しながら主催事業を実施し、青少年団体の活動を支援してきた。

I. 令和 7 年度の目標

1. 魅力的な自主事業の実施

- 利用者ニーズに即した事業を企画し、発信や応募方法を工夫する。
- 新たな視点での取組みをし、シルバー人材を有効に活用する。

2. 新たな利用者の開拓

- 近隣大学で直接に学生にセンターの活動の紹介や参加を呼び掛ける。
- スペシャルウィークスで様々な展示・イベントを実施し、存在を P R する。

3. 青少年健全育成の推進

- 青少年団体の活動を紹介したり、発表したりする場を設定する。
- 青少年団体の連絡会を開催し、情報交換や確認事項を共有する。

<数値目標>

- 1. 利用者数 53,000 人 (令和⁶年度実績 56,165 人)
- 2. 講座等参加者数 2,000 人 (令和⁶年度実績 1,920 人)

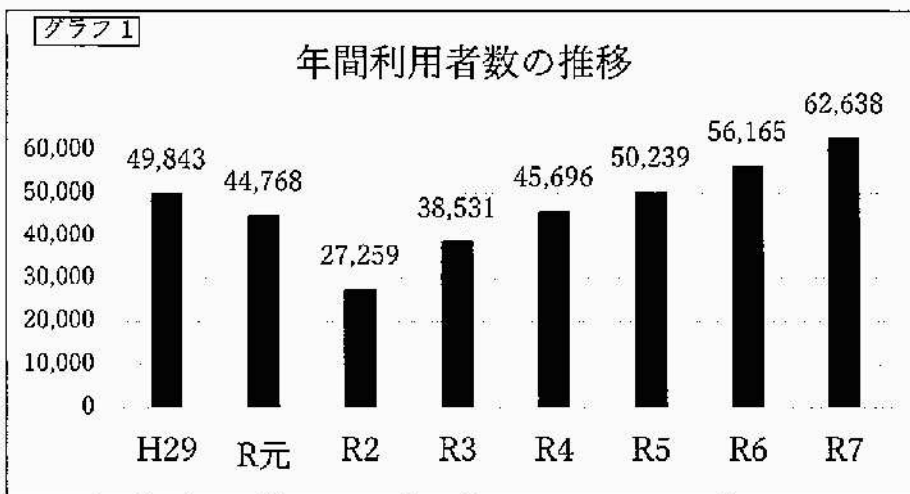
II. 令和 7 年度の実績

1. 施設利用者数

	R5 年度	R6 年度	R7 年度				
	実績	実績	目標	実績	達成率	他施設使用	合計
利用者数	50,239 人	56,165 人	53,000 人	62,638 人	118%	2,691 人	65,329 人

令和 7 年度の利用者数は 62,638 人で、達成率は目標の 118% であった。

グラフ 1 から、年間利用者数は、コロナ禍の影響で大きく織り込んだ令和 2 年度が底となり、それ以後は順調に増えていることが分かる。ここ 3 年間

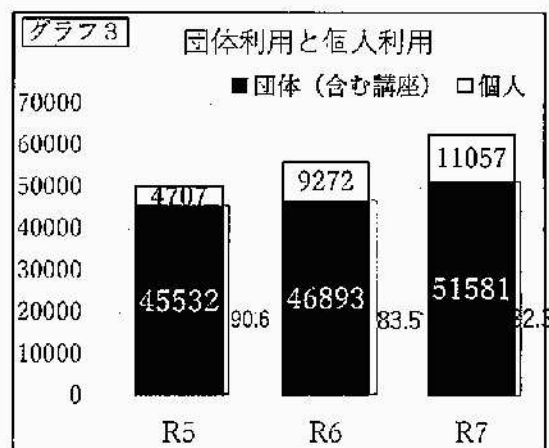


は毎年 6,000 人程度増加していて、令和 7 年度は前年に比べて 6,473 人の増となった。

「グラフ 2」から、毎年 6～10 月くらいの利用が多く、夏休みにあたる 8 月がピークとなっていることが分かる。令和 7 年度は 10 月、12 月を除いて前年より利用者が多かった。1～3 月は寒い時期であり、主催講座が少なく例年利用者が少ないが、今年度は毎月 4,000 人を超えた。

年間を通して利用者増の傾向にあるのは、利用者への「丁寧な対応」や「わかりやすい説明」などの接遇の向上を常に職員が意識して実行していることも一因であると思われる。

2. 団体利用と個人利用



「グラフ 3」から、利用者全体に占める個人利用の割合が、団体利用（講座参加者を含む）と比べて大きくなっていることが分かる。令和 7 年度は個人利用が 1 万人を超え、全体の 17.7% になった。

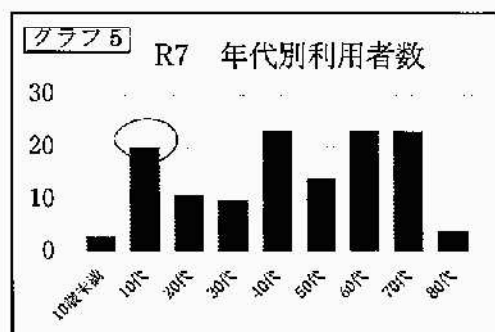
「グラフ 4」から、体育室、運動広場、図書談話室の個人利用人数はあまり変化がないが、多目的室は昨年度に引き続き、大きく利用が増えていることが分かる。片づけを励行したり、遊具を充実したり、BGM を流したりして環境を整えたことの効果が表れているようである。さらにココニコが工事中での利用できなかったことも、影響しているものと考えられる。

今後も団体利用だけではなく、気軽に個人で利用できる青少年センターも目指していきたい。

3. 年代別利用状況

「グラフ 5」は令和 7 年 9 月に 3 週間実施した利用者アンケートに回答いただいた 131 人の年代を示している。したがって、期間も対象も限定的である。

このグラフから 20 代、30 代、50 代を除き 10 代から 70 代までほぼ同じ割合で利用していることが分かる。



4. 施設別利用状況

	中央棟	研修棟	宿泊棟	運動広場	合計
R7	40,990 人	14,726 人	549 人	6,373 人	62,638 人
R6	36,269 人	11,748 人	438 人	7,710 人	56,165 人
R5	32,156 人	11,888 人	197 人	5,998 人	50,239 人

グラフ6より、中央棟の利用が多く、全利用者の65%を占めている。上表より昨年度比で中央棟の利用者は4,721人、研修棟は2,978人、宿泊棟は111人の増となっていることが分かる。運動広場は前年と比べて1,337人の減となっている。なお、令和7年度の運動広場の夜間照明の利用回数は120回であったが、そのうち3団体（サッカー2、少年野球1）が86回、全体の72%を占めている。



5. 宿泊利用

グラフ7より、利用者が着実に増えていることが分かる。令和5年度の利用者が195名だったので、ここ2年間で2.6倍増加したことになる。

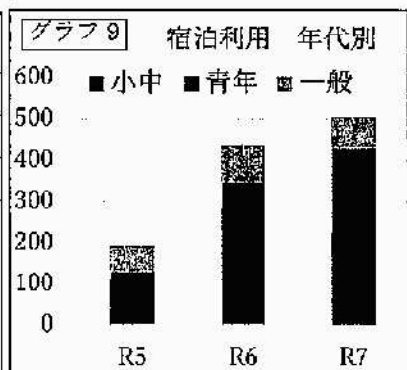
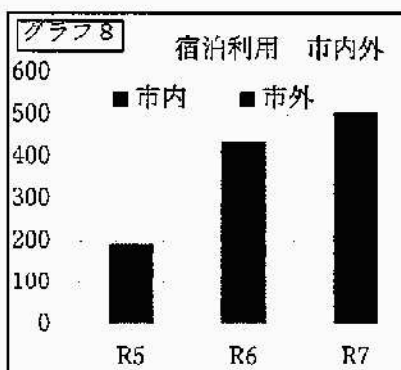
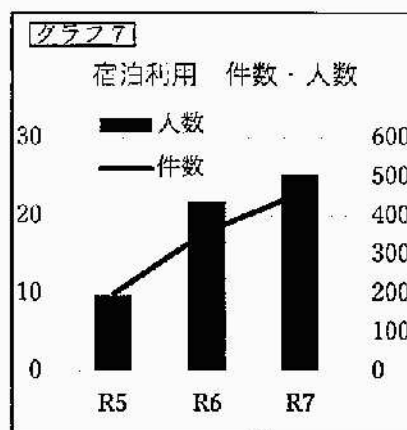
グラフ8より、令和7年度は市外の利用が大きく伸びていることが分かる。これは、あるNPO団体が大人数で複数回利用したこと、インターネット検索して新規に利用した団体がいくつかあったことによる。

また、グラフ9より、青年の利用が大きく伸びたことが分かる。先ほどのNPO団体ほか青年団体が多く利用したことによる。

いずれにしても使用料が破格の安さのため、リピーター、新規の団体など施設が古いにもかかわらず人気が高まっている。

宿泊利用実績

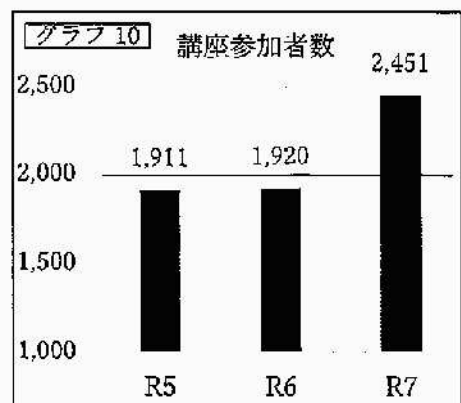
	R5	R6	R7
件数	10	18	23
人数	195	438	507
小中	114	285	212
青年	17	62	219
一般	64	91	76
市内	157	288	215
市外	38	150	292



6. 講座等参加者数

グラフ10より、令和7年度の講座等の参加者は延べ2,451人で、前年度と比べて28%の大幅増となったことが分かる。

講座数はほぼ同じだが、内容を精選して応募の少ない講座を止めたり、人気のある講座の定員を増やしたりした。また、新しく行ったボクシング・エクササイズ等の参加が予想以上に多かったこと、スペシャルウィークスのイベントが盛況であったことも影響している。*資料2参照

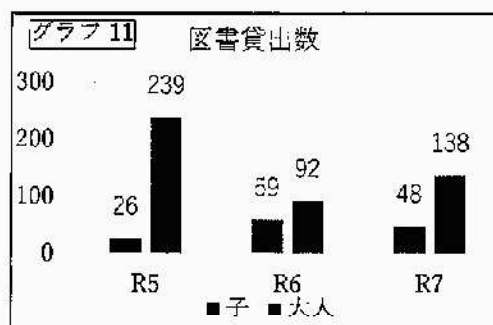


7. 図書利用状況

右表から中学生以下の図書の貸し出しが増えていないことが分かる。大人

の貸出し数は若干増えているが、借りる人数はほとんど変わらない。しかもこれは延べ人数なので、実際に借りている人はごく限られている。

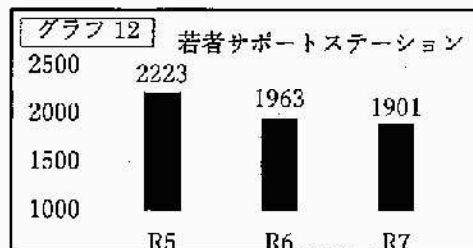
図書貸出	中学生以下		大人	
	人	冊	人	冊
R7	14	48	39	138
R6	23	59	34	92
R5	21	26	65	239



III. 関連団体施設利用者数

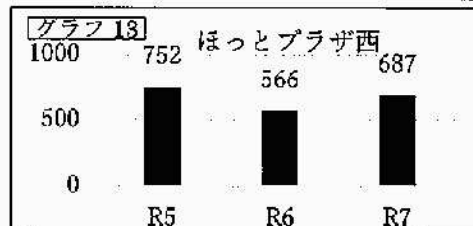
1 若者サポートステーション

若者サポートステーション 年間利用者数			
	R5 年度	R6 年度	R7 年度
利用者数	2,223 人	1,963 人	1,901 人
前年度比	112.3%	88.3%	96.8%



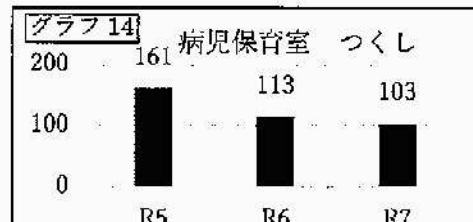
2 ほっとプラザ西

ほっとプラザ西 年間利用者数			
	R5 年度	R6 年度	R7 年度
利用者数	752 人	566 人	687 人
前年度比	113.4%	75.2%	121.4%



3 病児保育室つくし

病児保育室つくし 年間利用者数			
	R5 年度	R6 年度	R7 年度
利用者数	161 人	113 人	103 人
前年度比	153.3%	70.1%	91.2%



IV 収支状況

電気料金、燃料代をはじめ物価の高騰が経営を圧迫しているが、利用者へのサービスを低下させることなく、経費の節減に努めた。具体的には消耗品等の無駄を極力なくし、軽微な修繕はできる限り職員作業によって対応した。また、業者への依頼も内容をよく精査して交渉したり、業者を吟味したりすることによって支出を抑えた。さらに、パソコン周辺の機器などスタッフの所有物を提供することもある。

それでも収支に余裕は全くなく今後削減するとすれば、講座の支出を抑えることぐらいである。具体的には、受講料のアップや定員増、講座数の縮減について検討する必要がある。

*資料6 参照

V まとめ

1. 成果

(1) 利用者数

年間利用者は 62,638 人で初めて 6 万人を超え、目標の 53,000 人を大きく上回った。結果として、愛知ネットが平成 23 年度に指定管理を担ってからの 16 年間で最も多い利用者となった。大幅な利用増が実現した主な要因は以下の 4 点が考えられる。

① 職員の接遇向上

「私たちの仕事はサービス業である。」という意識を職員がもち、挨拶、声掛け、丁寧な応対を常に心がけを励行することによって、利用者との距離が縮まったことを実感している。その結果、利用者から声をかけてくれる機会も増え、固定的なリピーターが増えている。

② 個人利用の増加

多目的室では常に気持ちよく使ってもらえるように、室内の整頓に努めたり、BGM を流したりして居心地の良い空間づくりを心掛けた。また、「こども未来館 ココニコ」が改修工事で利用停止中であるため、利用者が流れているようである。

図書談話室で学習する中高生が集中して取り組めるように、適宜室内の様子を見て、他の利用者の邪魔になるような行動は自制するよう注意喚起をした。

体育室での個人利用の希望が重なった時は、職員が采配をして場所の割り当てをしたり、時間配分をしたりして、より多くの方が利用できるようにした。

③ 積極的な情報発信

利用者が当センターの情報を得るための手段は、やはり「広報とよはし」が最も多い。しかし、さらに幅広い市民に周知するために、情報紙「ヤングウェーブ」の魅力的な紙面づくり、館内掲示物の工夫に取り組んだ。PR 動画の放映、SNS の活用などで当施設の認識が広がったと考えている。

④ 心地よい施設の維持

日常的な清掃をシルバー会員の方が大変丁寧に行っているおかげで、古い施設ながら常に美しさが保たれ、利用者に気持ちよく使ってもらえている。また、職員の家人がロビーに飾っている花木を小まめに世話してくれるおかげで、常に花が溢れ明るい雰囲気を利用者を迎えることができている。立ち止まって花について話をする利用者もいる。

(2) 主催事業

今年度は年間で 47 講座延べ 161 回実施した。内訳は、愛知ネット企画：33 講座、延べ 146 回、シルバー企画：14 講座、延べ 15 回である。参加者数は延べ 2,443 人で目標の 2,000 人を大幅に超え、達成率は 123%であった。
2,451

しかし、若者の参加を期待して、夏休みの日中での実施を計画した「H30 ヒップホップダンス」は、人数が集まらず中止した。小学生や一般の対象の講座については応募はあるが、当センターの主役であるべき青少年の参加は相変わらず少ないのが現状である。若者が参加しやすいように内容や実施時期等を考えてはいるが、センターの限られた施設、若者の生活様式や価値観の変化等を考えると難しい状況である。

(3) 利用者評価

9 月に利用者アンケート実施し、131 人から回答をいただいた。「自由記述」では 130 件の意

見をお寄せいただいた。全ての意見に対してそれぞれ回答文を作成し、玄関ロビーに掲示し、ホームページに掲載した。利用者の要望に全て応えることはできないが、意見は出しっぱなしではなく、真摯に受け止めて検討している当方の姿勢を伝えることが重要であると考えている。

① 施設の使い勝手

「施設の使い勝手はどうでしたか」という問いに対して、「大変良い」35.4%、「良い」55.1%で肯定的な回答が90.5%であった。しかし、体育室の照明のLED化、エアコンの設置、エレベーターの設置、トイレの洋式化などの要望が多く出た。

② 職員の対応

「職員の対応はどうですか」という問いに対して、「大変良い」65.9%、「良い」34.1%で肯定的な回答が100%であった。ただ、職員によって接遇のレベルに差があるので、これからもひとりひとりがさらに質の高い利用者対応を身につける必要がある。

2. 課題

(1) 厳しい予算執行

収入は指定管理料として固定しているが、支出は物価・光熱費の高騰、最低賃金上昇によって、施設経営は大変苦しいものとなっている。例えば、電気料金についていえば、2023年（指定管理前年）419万円に対して、2025年度は503万円で84万円も高くなっている。同じく人件費は、1,455万円から1,543万円になり、88万円上昇している。この2つの項目だけで170万円以上の支出が増えている。そのため、故障などは職員で補修をしたり、危険が無く利用者にあまり不便をかけない箇所については貼り紙をしてそのままにしたりしている。

(2) 施設内事務所のあり方

現在、市子連をはじめ7つの団体・事務所が入っている。いずれも「青少年の健全育成」の一翼を担うということで、設置が認められたようだが、その条件はさまざまである。指定管理の節目にあたり、現状把握をし、整理する必要がある。

青少年センター内に事務所等を置く団体

団体名		担当課	部屋代	他部屋 利用料	電気代	蛍光管	その他
市子連	教 委	生涯学習課	減免	減免	指定管理料から支出 減免	指定管理料から支出 減免	
少年愛護センター		生涯学習課					
ほっとプラザ西		学校教育課					
KOZOTTE	市	スポーツ課			○	○	優先予約3か月前
病児保育室 つくし		保育課					電気代は月毎メーター
少年サポートセンター		愛知県警	○	○	○	○	電気代年度初に定額払い
若者サポートステーション			減免	○	減免	減免	

○は、団体が支払っている

(3) 施設の老朽化

築50年を経過しているため、各所の老朽化が進んでいる。将来的な運営計画に沿って、必要な箇所については改修する必要がある。特に必要な改修箇所は以下のとおりである。

- ① 体育室照明のLED化 : 水銀灯が製造中止。オートリフター破損。利用者からの要望。
- ② エアコンの交換、設置 : ほっとプラザ西、宿泊棟301使えず。体育室に新設。

③ 中央棟 LP ガス配管工事 : 事務室の給湯器、更衣室の温水シャワー使えず。

3. 次年度に向けて

(1) 利用向上を目指して

令和7年度は過去最高の利用者数となったが、令和8年度は使用料金が1.5倍となり、さらに隙間時間も徴収することになったことによって、どれほど影響が出るか不明である。例えば大研修室を一般の方が終日使用する場合、これまでは6,370円であったが、今後は11,280円となる。市外の方は2倍の22,560円、営利団体だと3倍の33,840円となる。この金額が利用の抑制につながるのではないか。一方、体育室の半面貸しを可能としたため、少人数の団体にとっては使用料金が下がり、利用できるチャンスが拡大することになる。

いずれにしても、これまで心がけてきた「職員の接遇の向上」、「積極的な情報発信」、「心地よい環境の維持」は今後も継続し、利用者に満足いただけるよう取り組んでいく。

(2) 主催事業の見直し

当センターでは「バラエティーに富んだ講座を低料金で誰でも参加しやすく」をモットーとしてきた。おかげで年間2,400人以上の方が参加し、公共の社会教育施設としての役割を果たしてきた。しかしその一方、講座を開催するほどに収支はマイナスとなっている。*資料3参照

次年度の講座計画を立てる上で、以下の3つの観点で精査した。

ア 講座の回数を減らす … 47講座161回⇒41講座142回

イ 参加料を上げる … 6回講座1800円⇒2000円

ウ 定員を増やす … ズンバ30人⇒40人 ヨガ15人⇒25人

これらの精査により、計算上、収支は54万円のマイナスとなり、前年と比べて10万円程度は改善されることになる。指定管理の申請時に約束したことを守りつつ、市民のニーズや青少年センターの役割を見極めて魅力ある講座を開催していく。

(2) 指定管理

令和8年度をもって3年の指定管理が区切りとなる。豊橋市が青少年センターを指定管理制度に組み込んだ平成23年度から、愛知ネットが継続して管理運営をしてきた。施設の老朽化、収支状況、職員配置、更には全市的な青少年施設の大規模な改革等を十分に検討して、今後のことを判断していく。